



【キイトルーダ+ゲムシタピン+カルボプラチン療法について】



☺ **薬の名前と治療のスケジュール** (副作用の状況を考慮して、抗がん剤の影響が強く残っていると考えられる場合は、次回の治療開始を延期することがあります。)

薬の名前	作用	目安の時間	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目
生理食塩液		15分	☺																					☺
キイトルーダ注	抗がん剤です	30分	☺																					☺
生理食塩液		6分	☺																					☺
グラニセトロン注 デキサート注	吐き気止めです	15分	☺							☺														☺
ゲムシタピン注	抗がん剤です	30分	☺							☺														☺
カルボプラチン注	抗がん剤です	1時間	☺							☺														☺
生理食塩液		15分	☺							☺														☺

☺ **ゲムシタピン+カルボプラチン治療による副作用** :注意が必要な時期

	1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目
自覚症状	発熱	悪寒、発熱があるときはお知らせ下さい。																				
	食欲不振・吐き気	食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																				
	血管痛・静脈炎	点滴の途中に、注射部分やその周りに違和感や痛みなどがあればお知らせください。																				
	口内炎	口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかりと行いましょう。																				
	脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)	髪質が少し変わることもありますが、治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																				
検査値	白血球減少(好中球減少)	感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																				
	赤血球減少(貧血)	貧血の症状(めまい・ふらつき)がでたりします。転倒に注意しましょう。																				
	血小板減少	出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																				
	肝機能低下	体がだるい、食欲が出ない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなる可能性があります。																				

☺ キイトルーダの作用

- 私たちの体の中では、免疫細胞が、がん細胞などの異常な細胞を攻撃、排除しています。
- しかし、がん細胞は免疫細胞の働きにブレーキをかけ、その攻撃から逃れる事が分かってきました。
- この抗がん剤は、免疫細胞の働きにがん細胞からのブレーキがかからないようにします。
- この結果、免疫細胞は攻撃力を取り戻し、がん細胞を再び攻撃する事ができるようになります。

☺ キイトルーダ治療による副作用

- 軽度の皮膚障害(発疹、かゆみなど)は、早期におこることが多いです。
- 注意を要する副作用の一部 (【】かっこ内は症状の例)
 - 間質性肺疾患【息切れ、息苦しい。咳が出る。発熱など】
 - 1型糖尿病【口が渇く。たくさん水分が欲しくなる。尿の量や回数が増える。疲れやすい。体重が減る。吐き気、嘔吐。腹痛など】
 - 甲状腺機能障害【気力の低下。疲れやすい。まぶたが腫れぼったい。さむけを感じる。体重が増えるまたは減るなど】
 - 重症筋無力症【まぶたが下がったまま戻らない。物が二重に見える。手足に力が入らないなど】
 - 薬剤の注入に伴う反応(点滴中または投与後)【吐き気、嘔吐。注射部位のほてり、痛み。かゆみ。息切れ、息苦しい。発熱など】
- その他の副作用や副作用の詳細は、別にお渡しした説明冊子を参考にしてください。**
- 今後の外来での治療に際して、自宅での症状確認の参考としますので、お渡しした説明冊子の治療日記に記入をして下さい。



- * 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。
- * 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。
- * それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。
- * 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。